

平成22年度

日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理  
に関する法律に定める施策の実施の状況  
に関する報告

平成24年2月

この報告は、日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律（平成10年法律第136号）第31条の規定に基づき、国鉄長期債務の処理に関する施策の実施の状況について行うものである。

# 目 次

第一	施策の実施の状況の概要	1
第二	国における承継した債務の処理状況 国鉄長期債務に係る国債及び借入金の状況に関する平成21年度 末及び22年度末における現在額	5
第三	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が行う特例業務の状況 (1) 平成22事業年度貸借対照表 (2) 平成22事業年度損益計算書 (3) 平成22事業年度キャッシュ・フロー計算書 (4) 平成22事業年度利益の処分に関する書類 (5) 平成22事業年度行政サービス実施コスト計算書	9
第四	平成22事業年度事業の概要	21

## 第一 施策の実施の状況の概要



# 「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律」に定める 施策の実施の状況の概要

はじめに

平成10年10月に約28兆円にのぼる国鉄長期債務の処理策を実施するための「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律」が成立し、これに基づき、同月より国鉄長期債務の処理策が実施に移された。

同法第31条により、政府は、国会に対し、毎年、国鉄長期債務の処理に関する施策の実施の状況を報告しなければならないこととされており、本報告は平成22年度に実施した施策の実施の状況を報告するものである。

## 1. 国における承継した債務の処理状況

平成10年度末時点での一般会計に承継された国鉄長期債務の残高は、24兆98億円であったが、平成22年度末時点では、19兆791億円となった。

このうち、「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律」の規定により、平成10年10月に承継された同事業団の有利子債務16兆301億円の平成22年度末における残高は、13兆3,624億円となり、また、承継実施後平成22年度末までの間において発生した利子等は2兆4,119億円となった。

これらの支払財源については、郵便貯金特別会計からの特別繰入れ（平成14年度まで）、たばこ特別税収及び一般会計国債費等により手当した。

## 2. 鉄道建設・運輸施設整備支援機構が行う特例業務の状況

日本鉄道建設公団は、平成10年10月22日の「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律」の施行により、日本国有鉄道清算事業団の権利義務を承継し、年金等負担金等の支払い、土地・株式の処分等を特例業務として実施することとなった。

土地・株式の処分については、「日本国有鉄道清算事業団の解散に伴う日本鉄道建設公団による特例業務の実施及び職員の再就職対策について」（平成10年2月20日閣議決定）に基づき処分を進めることとされた。

日本鉄道建設公団の特例業務は、特殊法人改革に伴い、平成15年10月から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に引き継がれた。

平成22年度において、資産の売却収入は、土地売却収入が38億円であり、年金等負担金等の支払いは2,042億円であった。



## 第二 国における承継した債務の処理状況





国鉄長期債務に係る国債及び借入金の状況に関する平成21年度末及び  
22年度末における現在額

(額面ベース・単位：百万円)

	21年度末	22年度末
日本国有鉄道清算事業団承継債務借換国債	18,679,709	18,643,783
日本国有鉄道清算事業団債券承継国債	—	—
借入金	843,575	435,355
合計	19,523,284	19,079,138

注1 「日本国有鉄道清算事業団承継債務借換国債」とは、日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律の規定により、一般会計において承継した借入金及び債券を借り換えるための国債である。

注2 「日本国有鉄道清算事業団債券承継国債」とは、日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律の規定により、一般会計において承継した債券に係る債務である。なお、「日本国有鉄道清算事業団債券承継国債」については、平成19年度に借り換え及び償還が終了した。

注3 「借入金」とは、日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律の規定により、一般会計において承継した借入金に係る債務である。



### 第三 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 が行う特例業務の状況

- (1) 平成22事業年度貸借対照表
- (2) 平成22事業年度損益計算書
- (3) 平成22事業年度キャッシュ・フロー計算書
- (4) 平成22事業年度利益の処分に関する書類
- (5) 平成22事業年度行政サービス実施コスト  
計算書



損益計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：円)

特例業務勘定

経常費用	2,007,395,593	2,007,395,593	
処分費用		253,902,963	
職法出賃外環境処土		34,919,908	
職法出賃外環境処土		118,935,114	
職法出賃外環境処土		20,182,395	
職法出賃外環境処土		73,882,084	
職法出賃外環境処土		9,924,426	
職法出賃外環境処土		947,859,131	
職法出賃外環境処土		445,088,419	
職法出賃外環境処土		85,379,547	3,997,469,580
共済関係業務費用		18,555,950,000	
共済関係業務費用		268,988,576	
共済関係業務費用		1,779,528,797	
共済関係業務費用		1,893,710,240	
共済関係業務費用		331,683,756	
共済関係業務費用		42,182,113	22,872,043,482
一般職員福利厚生		536,295,927	
一般職員福利厚生		74,592,038	
一般職員福利厚生		519,421,419	
一般職員福利厚生		82,108,697	
一般職員福利厚生		27,011,340	
一般職員福利厚生		18,990,186	
一般職員福利厚生		4,549,527	
一般職員福利厚生		28,660,452	
一般職員福利厚生		416,519,219	
一般職員福利厚生		46,179,688	
一般職員福利厚生		27,745,566	
一般職員福利厚生		226,421,155	
一般職員福利厚生		249,820,376	2,258,315,590
財政支		120,930	120,930
経常費用合計			6,918,904
経常収益			29,134,868,486
処分利益	3,777,439,372	3,777,439,372	
附帯利益		83,749,300	
退職給付引当金戻入		1,568,601	
共済年金追加費用引当金戻入		62,578,722,000	
恩給用資産処取		1,033,761,576	
環境対策業務取		3,860,554	
財受		2,387,476	
経常収益合計	117,513,167,421	117,513,167,421	
経常利益		53,526,411	185,048,182,711
臨時損失			155,913,314,225
臨時損失		5,534,145	5,534,145
当期純利益			155,907,780,080
当期総利益			155,907,780,080

キャッシュ・フロー計算書  
(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

特例業務勘定

(単位：円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
原材料、商品又はサービスの購入による支出	-19,399,970,082
人件費支出	-2,996,645,550
共済年金追加費用支払支出	-196,861,228,000
恩給負担金の支払による支出	-1,337,127,000
業務災害補償費の支払支出	-5,654,906,284
その他の業務支出	-18,104,932,370
処分用資産売却収入	1,125,288,017
土地等貸付収入	41,244,400
供託金の受入による収入	446,600,000
その他の業務収入	477,527,272
小計	-242,264,149,597
利息及び配当金の受取額	116,745,088,356
利息の支払額	-249,995
業務活動によるキャッシュ・フロー	-125,519,311,236
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	-393,000,000,000
有価証券の償還による収入	418,000,000,000
投資有価証券の取得による支出	-63,839,300,000
投資有価証券の償還による収入	163,500,000,000
有形固定資産の取得による支出	-3,068,415
定期預金の払戻による収入	31,000,000,000
他勘定長期貸付金の回収による収入	67,095,701,575
その他	11,158,800
投資活動によるキャッシュ・フロー	222,764,491,960
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	-2,787,986
	-2,787,986
IV 資金に係る換算差額	-
V 資金増加額	97,242,392,738
VI 資金期首残高	86,580,801,480
VII 資金期末残高	183,823,194,218

利益の処分に関する書類  
(平成23年9月14日)

特例業務勘定

(単位：円)

I	当期末処分利益		155,907,780,080
	当期総利益	155,907,780,080	
II	利益処分額		
	積立金	<u>155,907,780,080</u>	<u>155,907,780,080</u>



## 行政サービス実施コスト計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

特例業務勘定

(単位：円)

I	業務費用		
	(1) 損益計算書上の費用		
	特例業務費	26,869,513,062	
	一般管理費	2,258,315,590	
	財務費用	120,930	
	雑損	6,918,904	
	固定資産除却損	<u>5,534,145</u>	29,140,402,631
	(2) (控除) 自己収入等		
	処分用資産売却収入	-3,777,439,372	
	附帯事業収入	-83,749,300	
	退職給付引当金戻入益	-1,568,601	
	共済年金追加費用引当金戻入益	-62,578,722,000	
	恩給負担金引当金戻入益	-1,033,761,576	
	処分用資産処理引当金戻入益	-3,860,554	
	環境対策引当金戻入益	-2,387,476	
	財務収益	-117,513,167,421	
	雑益	<u>-53,526,411</u>	<u>-185,048,182,711</u>
	業務費用合計		-155,907,780,080
II	引当外退職給付増加見積額		<u>24,378,633</u>
III	行政サービス実施コスト		<u><u>-155,883,401,447</u></u>

# I 重要な会計方針

## 1. 減価償却の会計処理方法

### 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	12～38年
車両運搬具	2年
工具器具備品	5～10年
リース資産	3～5年

## 2. 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率に基づき、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 賞与引当金

役員及び職員等の期末手当及び勤勉手当の支出に充てるため、翌期賞与支給見込額のうち当期発生分を計上しております。

### (3) 共済年金追加費用引当金

当機構は、日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律(平成10年法律第136号。以下「債務等処理法」という。)に基づき、特例業務として旧日本国有鉄道(以下「旧国鉄」という。)に係る年金の給付に要する費用(共済年金追加費用)について負担することとされております。

この給付負担に備えるため、期末において見積られる翌期以降の将来キャッシュ・フロー総額を期末現在価値に割引いた額(割引率は、1.0%)を「共済年金追加費用引当金」として計上しております。

期末における基礎率の見直しに伴い発生する数理計算上の差異は、発生年度に一括償却しております。

### (4) 恩給負担金引当金

当機構は、債務等処理法に基づき、特例業務として旧国鉄に係る年金の給付に要する費用(恩給負担金)について負担することとされております。

この給付負担に備えるため、期末において見積られる翌期以降の将来キャッシュ・フロー総額を期末現在価値に割引いた額(割引率は、4.1%)を「恩給負担金引当金」として計上しております。

期末における基礎率の見直しに伴い発生する数理計算上の差異は、発生年度に一括償却しております。

### (5) 業務災害補償費引当金

当機構は、債務等処理法に基づき、特例業務として旧国鉄に係る年金の給付に要する費用(業務災害補償費)について負担することとされております。

この給付負担に備えるため、期末において見積られる翌期以降の将来キャッシュ・フロー総額を期末現在価値に割引いた額(割引率は、0.8%)を「業務災害補償費引当金」として計上しております。

期末における基礎率の見直しに伴い発生する数理計算上の差異は、発生年度に一括償却しております。

### (6) 環境対策引当金

旧国鉄から承継したPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む変圧器、安定器、廃油等の廃棄物の処分に係る支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

### 3. 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

役員及び職員等の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、独立行政法人会計基準第38に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上しております。

なお、当機構は、旧国鉄の清算業務として、旧国鉄職員に対する恩給負担金、共済年金追加費用の支払いを行っております。これら退職給付は旧国鉄職員に対する退職給付であり、当機構在籍職員に対する退職給付ではありません。このため、業務目的に係る負債性引当金であることをより明瞭に表示するため、貸借対照表上「共済年金追加費用引当金」「恩給負担金引当金」として独立掲記しております。

### 4. 有価証券(処分用を含む)の評価基準及び評価方法

#### (1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法によっております。

### 5. たな卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 貯蔵品

先入先出法による低価法によっております。

#### (2) 処分用資産(有価証券を除く)

個別法による低価法によっております。

### 6. リース取引の処理方法

リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が300万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 7. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

### [会計方針の変更]

#### 資産除去債務

独立行政法人会計基準の改訂に伴い、当事業年度より資産除去債務に係る会計処理を適用しております。

この変更に伴う、損益に与える影響はありません。

なお、当事業年度より、改訂後の独立行政法人会計基準を適用して、財務諸表等を作成しております。

## II 注記事項

### 〔損益計算書関係〕

1. 共済年金追加費用引当金戻入益、恩給負担金引当金戻入益、業務災害補償費引当金繰入は、基礎率見直しに伴い発生する数理計算上の差異の一括償却額であります。
2. 受取利息には、他勘定長期貸付金に係る貸付金利息 99,039,812,911 円が含まれております。

### 〔キャッシュ・フロー計算書関係〕

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	183,823,194,218 円
資金期末残高	183,823,194,218 円

### 〔行政サービス実施コスト計算書関係〕

引当外退職給付増加見積額のうち、24,378,633 円については国からの出向職員に係るものであります。

### 〔金融商品関係〕

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

特例業務勘定での資金の運用は、独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 47 条に基づき、国債、地方債、政府保証債及び金融債に限っております。また、旧国鉄職員に対する年金等の支払いを将来にわたり確実に実施するため、特例業務勘定資産運用・管理規程を定め、資産の計画的な運用及び運用資産の安全管理などを適切に行うこととしております。

##### (2) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格が無い場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

#### 2. 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	183,823,194,218	183,823,194,218	0
(2) 有価証券	1,251,830,366,521	1,252,682,709,000	852,342,479
満期保有目的有価証券	121,891,587,521	122,743,930,000	852,342,479
その他有価証券	1,129,938,779,000	1,129,938,779,000	0
(3) 長期貸付金	100,000,000,000	86,268,045,795	-13,731,954,205
(4) 他勘定長期貸付金	1,509,155,722,299	2,239,403,685,453	730,247,963,154

#### (注 1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券等に関する事項

##### (1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券

有価証券（非上場株式を除く。）の時価については、市場価格等によっております。

(3) 長期貸付金

長期貸付金の時価については、北海道旅客鉄道株式会社、四国旅客鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社及び日本貨物鉄道株式会社への無利子貸付金であり、元金を残存期間に対応する国債の流通利回りで割り引いて算定する方法によっております。

(4) 他勘定長期貸付金

他勘定長期貸付金は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構法（平成14年法律第180号）等に基づき、助成勘定の鉄道施設譲渡収入の一部を旧国鉄職員の年金等財源として受け入れるものであり、同勘定に対する貸付金として整理されております。

同勘定からの償還条件等は法令で規定されている特殊な債権ですが、時価については、市場性を織り込む観点から元利金の合計額を残存期間に対応する国債の流通利回りで割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式	195,801,000,000

これについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることなどが出来ず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「2. (2) 有価証券」には含めておりません。

〔有価証券関係〕

1. 満期保有目的の債券

(単位：円)

区 分	貸借対照表計上額	決算日における時価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	121,891,587,521	122,743,930,000	852,342,479
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	0	0	0
合 計	121,891,587,521	122,743,930,000	852,342,479

2. その他有価証券

(単位：円)

区 分	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	1,042,701,373,000	1,002,578,513,901	40,122,859,099
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	87,237,406,000	87,773,646,687	-536,240,687
合 計	1,129,938,779,000	1,090,352,160,588	39,586,618,412

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券及び満期保有目的の債券

該当ありません。

4. 保有目的が変更になった有価証券

従来満期保有目的で保有していた債券をその他有価証券に変更しております。これは、東日本大震災に対処するために必要な財源の確保を図るための特別措置に関する法律（平成 23 年法律第 42 号。以下「震災財源確保法」という。）第 4 条の規定に従い、積立金の国庫納付の返還の財源に充てるために変更したものであります。この結果、有価証券が 1,129,938,779,000 円増加、投資有価証券が 1,090,352,160,588 円減少、その他有価証券評価差額金が 39,586,618,412 円（貸方）増加しております。

5. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の決算日後における償還予定額

(単位：円)

区 分	1 年以内
満期保有目的の債券	
債券	122,000,000,000
国債・地方債等	122,000,000,000
その他有価証券	
債券	1,129,938,779,000
国債・地方債等	1,129,938,779,000
合 計	1,251,938,779,000

[退職給付関係]

1. 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として、退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

① 退職給付債務	9,677,850 円
(内訳)	
② 未認識過去勤務債務	0 円
③ 未認識数理計算上の差異	0 円
④ 退職給付引当金	9,677,850 円

注) 平成 22 年度終了時において原則法により算定している特例業務勘定の職員が皆無となったことから、過去勤務債務及び数理計算上の差異の未認識部分を一括償却いたしました。

なお、当機構の役員及び臨時職員に対する退職一時金は簡便法により算定しております。

3. 退職給付費用に関する事項

① 勤務費用	4,293,760 円
② 利息費用	364,084 円
③ 過去勤務債務の費用処理額	1,281,685 円
④ 数理計算上の差異の費用処理額	-6,833,430 円
⑤ 退職給付費用（－退職給付引当金戻入益）	-893,901 円

注) 簡便法により退職給付債務を算定している場合の退職給付費用は、①勤務費用に含めて処理しております。

#### 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

##### ① 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

##### ② 割引率 1.5 %

##### ③ 過去勤務債務の処理年数 9年

(発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法。)

##### ④ 数理計算上の差異の処理年数 9年

(発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法。ただし、翌事業年度から費用処理することとしております。)

### III 重要な債務負担行為

翌事業年度以降に支払いを予定している債務負担行為額は、6,523,403,814円であります。

### IV 重要な後発事象

[震災財源確保法に基づく国庫納付について]

平成23年5月2日に施行された震災財源確保法第4条の規定に従い、平成23年度において積立金より1,200,000,000,000円の国庫納付を行うこととなります。

[債務等処理法の改正に基づく業務の追加について]

平成23年6月8日に成立した日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律等の一部を改正する法律(平成23年法律第66号)に基づき、次の業務が追加されました。

- (1) 北海道旅客鉄道株式会社及び四国旅客鉄道株式会社を引き受けるべきものとして、鉄道建設・運輸施設整備支援機構特別債券の発行及び北海道旅客鉄道株式会社及び四国旅客鉄道株式会社に対し、特別債券の引き受けに要する費用に充てるための無利子の資金の貸付け
- (2) 北海道旅客鉄道株式会社、四国旅客鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社及び日本貨物鉄道株式会社に対して、老朽化施設の更新等に係る無利子貸付及び助成金の交付
- (3) 北陸新幹線(高崎・長野間)の債務償還の費用に充てるための特例業務勘定から建設勘定への繰入れ
- (4) 並行在来線の貨物調整金に要する費用に充てるための特例業務勘定から建設勘定への繰入れ

### V その他

[国鉄清算事業に伴う財務上の潜在的なリスクについて]

当機構(特例業務勘定)では、「旧国鉄職員の石綿健康被害に伴う補償関係経費、旧国鉄から承継した処分用の土地に係る土壤汚染処理費、訴訟賠償費用、低濃度等に係るPCB等の廃棄物の処理費用」について、その金額を合理的に見積もることができないため、支出年度に費用計上しておりますが、これらの費用は引き続き発生する可能性のある債務として存在します。

また、これらの費用及び予定給付債務に係る基礎率などに著しい変動があった場合のリスクについては、資産処分等の収入を充当し、不足額については利益剰余金(積立金)を充当することとしております。

## 第四 平成22事業年度事業の概要



## 平成22事業年度事業の概要

平成22事業年度における鉄道建設・運輸施設整備支援機構の特例業務実施結果は次のとおりである。

① 年金等負担金等の支払い 204,150百万円

ア 日本国有鉄道の役員又は職員であった者等に係る恩給に要する費用の支払い

イ 日本鉄道共済組合等が支給する年金の給付に要する費用等の支払い

② 資産の処分 3,777百万円

吹田信号場、香椎操車場などの土地の売却

③ 宅地の造成及び関連施設の整備 22,284百万円

武蔵野操車場などにおける土地等の資産処分を効果的に行うための宅地の造成及び関連施設の整備等

④ 権利及び義務の行使及び履行

不法行為による損害金の請求等

⑤ 投資 0百万円

投資は行われなかった。